

- 26 -

4. 実地調査・AMS結果

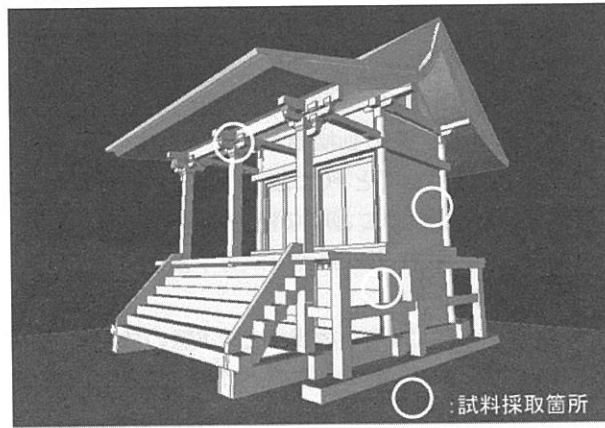
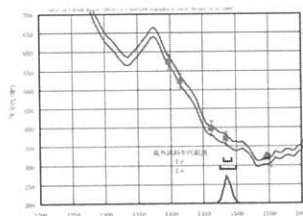


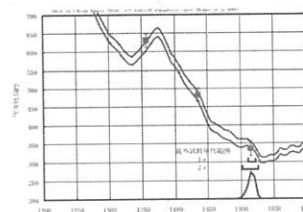
図4 中山神社旧本殿 試料採取箇所

10月27日に中山神社旧本殿の実地調査を行った。
AMS法を用いるための試料を中山神社旧本殿から三カ所採取した。

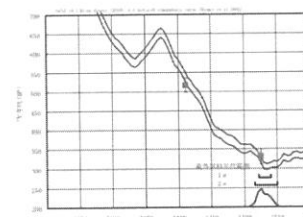
①床下部分の柱 ②身舎の壁板 ③向拝柱の大斗
4.1 AMS結果 測定：(株)パレオ・ラボ



①床下部分の柱
最外試料年代
1447~1501 cal AD
信頼度 95.4%



②身舎の壁板
最外試料年代
1504~1528 cal AD
信頼度 95.4%



③向拝柱の大斗
最外試料年代
1563~1598 cal AD
信頼度 95.4%

図7 向拝柱の大斗

4.2 AMS結果考察

三カ所の測定結果より、中山神社旧本殿は16世紀に建立された建築物であると考えられる。

中山神社は「村の鎮守なり、社領十五石の御朱印は天正十九年十一月附せらる」と新編武蔵風土記稿にあり、AMSの結果から、天正19年(1591)以前の建築物であると考えられ、安土・桃山時代に建立された建築物であると考えられる。

試料採取の際、柱の材は年輪の向きが断定できなかった。測定の結果を見ても1447~1501 cal ADと15世紀の年代になった。このことから柱は製材の際、材の中心部分を使用したのではないかと考えられる。それに比べ大斗は試料採取の際に、大斗の上の部分がほぼ最外年輪部ではないかという年輪が見られた。従って中山神社旧本殿の建立年代は、大斗の測定結果から16世紀と考えられ、1580年頃、安土・桃山時代まで確実に遡ると考えられる。一方柱の測定結果が大斗より100年古い結果から大斗を含む向拝部分が桃山期に改修された可能性も残る。

5. 他の社殿との比較分析

他の社殿との比較分析のため、次の三社殿を比較対象とする。

(1) 上大久保氷川神社本殿



図8 上大久保氷川神社本殿

上大久保の氷川神社は、本殿が何度か改造を受けている点が惜しまれるが、建立年代は古く、桃山時代ごろの建築と考えられている。流造としては、浦和市内最古の建築になり、総ケヤキ造りである。

文禄5年(1596)建立と記録にある本殿(大間木氷川神社本殿の一代前か)を式年遷宮の際に譲り受けたものと推定されている。現在は浦和市指定有形文化財である。

(2) 羽霊神社本殿



図9 羽霊神社本殿

建立年代は、棟札・墨書がないため不明であるが、江戸時代初期に武蔵国の一ノ宮である氷川神社より、旧社殿として使われていた部材を譲り受けて移築したという言い伝えが残っている。また、建物の意匠面から見ると、一部猿の木鼻などに江戸中期の意匠が見られるが、虹梁などを周辺の氷川神社と比較しても、建立年代は江戸時代前期を降らないと考えられる。

(3) 大間木氷川神社本殿

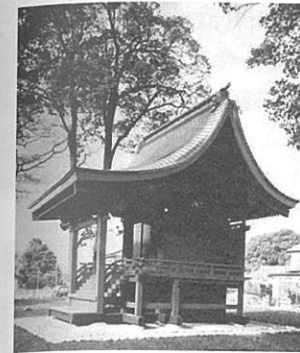


図10 大間木氷川神社本殿

この本殿は、「神社明細帳」には、寛文7年(1667)、武蔵国一宮氷川神社(大宮市)の造替にあたり、旧本殿を買受けて建立したとある。さらに、平成7年の修理の際、寛文7年2月、氷川大明神一字を造立した旨が記された棟札が見つかり、この地での建立時期が明らかになっている。この本殿は、武蔵国一宮の旧本殿と考えられる貴重な遺構であり、建立年代を明らかにし、規模大きく、意匠も優れた建築として、きわめて保存価値が高いと言える。現在は浦和市指定有形文化財となっている。

5.1 三社殿との比較・分析・考察

三棟の中で最も規模・形式が類似しているのが上大久保氷川神社本殿である。上大久保氷川神社本殿は大宮氷川神社旧本殿(1596建立)を譲り受け、二間社見世棚造で、中山神社旧本殿より少し大きい。材料は上大久保氷川神社本殿が檜、中山神社旧本殿が杉である。AMSの結果から中山神社旧本殿が安土・桃山時代の可能性が強く、材料や規模に多少の違いがある。しかし、氷川神社の宮司吉田氏が伝えるところ、中山神社は氷川移しとされ、その可能性もある。

一方で、大斗の年代からすると、中山神社旧本殿が1580年頃の建立で形式が二間社見世棚造であるため、1596年に造替された大宮氷川神社の前身形態とは並行して存在したと考えられ、矛盾する。しかし前述の通り大斗を桃山期改修と考え、柱、壁板材の年代から中山神社が16世紀前半の建立とすれば、上大久保氷川神社本殿の一代前の建築であった可能性はある。

なお1596年建立の大宮氷川神社本殿も二間社見世棚造で、現在上大久保氷川神社本殿に移築されていると考えられるが、これは中山神社旧本殿と同形式で二間社相殿であることから、氷川男體神、氷川女體神のための社殿であり、中山神社は元鏡王子社ではなく氷川夫婦神を奉祭した神社であったと考えられる。

5.2 意匠的比較・分析・考察

ここでは三社殿の中でも年代に近いと思われる上大久保氷川神社本殿と比較を行う。まず中山神社旧本殿は木鼻や虹梁などに彫刻が見られない。全体的にも装飾といった部分が数少なく、意匠的な年代判別が難しい。

一構造形式一
一間社流造
桁行2.56m
梁間2.44m
向拝の出1.96m

一構造形式一
二間社流造
(見世棚造)
桁行2.70m
梁間1.89m
向拝の出1.00m

一構造形式一
一間社流造
(見世棚造)
桁行2.58m
梁間2.26m
向拝の出2.12m

上大久保氷川神社は桃山時代の建築物と考えられているが、虹梁の彫刻を見てみると若葉の彫りがあり、この部分だけ見ると江戸時代前期の建築物ではないかとも考えられる。木鼻や墓股での年代判別は難しいとされるが、資料等(参考文献13)での比較をすると上大久保氷川神社は江戸時代前期の建築物ではないかと考えられる。上すなわち1596年建立の大宮氷川神社本殿を江戸前期に移築し、虹梁彫刻は移築年代を示していると考えられる。

埼玉県内の二間社見世棚造の形式を持つ建築物は少なく比較対象も少ない。埼玉県内で最も形式に近いと思われる上大久保氷川神社との比較を行ったが、中山神社旧本殿はこれに比べ古く、中世的な要素を残す社殿である。

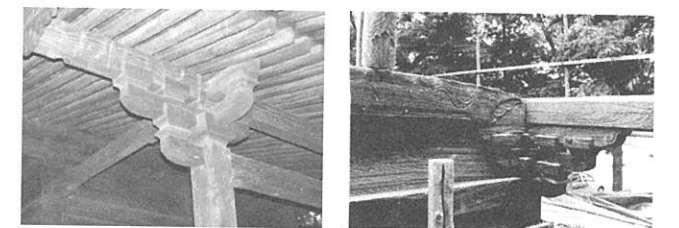


図11 左:中山神社旧本殿 右:上大久保氷川神社本殿

6. まとめ

AMS結果から中山神社旧本殿は遅くとも安土・桃山時代以前の建築物であると考えられる。部材の示す年代に100年程度のずれがあることから可能性は二つあり、一つは大斗の示す1580年頃建立とすると、氷川移しの可能性は少ない。二つ目は柱、壁板の示す16世紀前半の建立とすると、上大久保氷川神社より前の氷川移しの可能性があるということである。氷川移しの説も1580年頃建立であるため、他の神社との比較の結果、他の神社との同時期の氷川移しの可能性は少ないと考えられる。

現在では建立年代が江戸時代初期とされていたが、今回の放射性炭素年代測定において遅くとも桃山期まで建立年代が遡り、さいたま市周辺に現存する社殿の中でも歴史的価値の十分高い建築物であると考えられる。

参考文献

- 「川越の神社建築」 川越市教育委員会
- 「木造建築の木取と墨付け」 藤沢好一[監修] 田處博昭[著]
- 「伝統木造建築を読み解く」 村田健一
- 「神社明細帳」 明治時代初期
- 「埼玉の神社」 埼玉県庁舎 1998年
- 「近世寺社建築調査報告書集成4」 関東地方の近世寺社建築② 埼玉・千葉・東京
- 「武蔵国郡村誌」 明治時代初期
- 「¹⁴C年代測定法」 近藤邦彦 著
- 「新編武蔵風土記稿」 文献出版
- 「さいたま市指定有形文化財 上大久保氷川神社本殿修理工事報告書」
- 「浦和市指定有形文化財 大間木氷川神社本殿修理工事報告書」
- 「埼玉県文化財目録」 埼玉県教育委員会
- 「近世社寺建築の手引き-みかたと調べ方-」 日本建築史研究会